

緊急提案（請願）

「長寿社会」の形成が持続的な経済成長の要

高齢者3000万票の底力で総選挙の芯柱に！

2012年10月1日 国際高齢者の日

「支える高齢者」層を黙止してきた新世紀10年

「社会保障」の財源をおぎなう「消費税増税」法案は、6月26日に衆議院で、8月10日に参議院で採決されました。国会議員のみなさんは壇上で、どんな「日本長寿社会」の姿を思い画いていたのでしょうか。9月には行って行われた民主・自民両党党首選でも、論議は尖閣・原発・党内運営ばかりで、内政の要である「社会保障」の現場を論じる候補はいませんでした。

このまま推移しますと、史上初といわれ国際的にも先行する「日本高齢社会」は、高齢者みんなが敬愛され安心して暮らせるモデル事例から遠ざかり、失敗例にすらなりかねません。

「社会保障」については、2割ほどの「支えられる高齢者」への医療・介護・福祉では成果を感じることができます。が、年々増えつづけてきた「支える側の高齢者」が参画して形成する「長寿社会」への実感がありません。現役世代とともに、「支える高齢者」層が新たに加わった「**三世代多重型社会**」の充実による持続的な経済成長。それに対して無策であったことを政治リーダーは「新世紀10年の失政」として深く遠く省みたくうえで、増税とともに「内需による増収」への展望を合わせ論じて、はじめて国民の納得がえられることとなります。

来たる総選挙には実質的な政策論議を

来たる総選挙・次の参院選は正念場です。みんなでこしらえて享受する「日本長寿社会（少子・高齢化対応）」構想を政策の芯柱として明らかにすること。そのためには2009年の衆院選の動向を左右した高齢女性票（オカンパワー）とともに、今度は高齢男性層の力（オトンパワー）を合わせた3000万票（65歳以上。有権者の3.5人にひとり）の底力を発揮して、選挙区ごとにみんなが安心して暮らせる「三世代多重型社会」の姿を論議し、代表を選出し、合わせて国家構想として掲げるとともに確かなプロセスを国民に示すこと。それができる政権を出現させねばならないでしょう。「国民会議」の少数の有識者が決める課題ではないからです。

史上初の「長寿社会」を体現する者として

一方、高齢者はこの10年、成果をあげえませんでした。1999年の「国際高齢者年」を機に、国連が提唱した**高齢者五原則「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」**をひとつひとつ体現し、目標であった「みんな（all ages）のための社会」をめざす活動を、本腰をいれて推し進めてこなかったからです。旧来の「人生65年時代」の「二世代+ α 型社会の余生」を改めて、「**人生90年時代**」の高齢期を「三世代多重型社会の現役」として過ごすこと。それぞれに保持している健康・知識・技能・資産を活用することで、地域・職域に新たな「モノ・場所・しくみ」をこしらえること。それが総体としての「日本長寿社会」の達成に寄与することになるからです。

代表である国会議員のみなさんは政策として、各地各界のリーダーの方々はそれぞれのお立場で、そして高齢者は暮らしの中で、「来日方長」（来たる日まさに長し）といえるような構想を掲げて、新しい時代の達成にむかって踏み出す秋（とき）を迎えているのです。

***提案者 **堀内正範** 朝日新聞社社友 web「月刊丈風」編集人

e-mail mhori888@ybb.ne.jp tel&fax 0475-42-5673 〒 299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮9340-8 blog らうんじ・茶王樹・南九十九里から <http://myhp.ne.jp/chaoju/>